



沖縄でハチに擬態した新種のガを発見！

概要

九州大学大学院生物資源環境科学府修士1年生の屋宜禎央（やぎ さだひさ）さんが、沖縄島の北部でハチに擬態したスカシバガ科に属する珍しいガを発見しました。その後、発見した屋宜さん、九州大学大学院農学研究院の広渡俊哉教授、名城大学の有田豊名誉教授との共同研究により、新種のガであることが明らかとなり、台湾や中国の種とは異なりオレンジ色が目立つことから、「*Teinotarsina aurantiaca*」と命名しました（「アウランティアカ」は「オレンジ色の」の意味）。

今回の発見は、2016年2月6日（土）に東京大学で開催された日本蛾類学会（会長：岸田泰則）の研究発表会で発表されるとともに、2016年3月7日（月）付け出版の、動物の分類や系統・進化を扱う『ZooKeys 誌』で掲載されました。

背景

沖縄島には、多くの日本固有の生物が生息しています。昆虫類にもヤンバルテナゴコガネに代表されるように、日本の他の地域に見られず、近縁種が台湾や中国などに分布するものが知られています。

当研究室（農学研究院昆虫学研究分野）では、日本の昆虫類の起源や多様性を明らかにするため、琉球列島や中国南部のヒマラヤ地域を中心として、昆虫類の多様性に関わる調査を行ってきました。今回の発見は、そういった調査の過程で偶然もたらされたものです。

内容

2015年5月30日（土）に沖縄島北部において、ガ類の調査を行っていた九州大学大学院の大学院生の屋宜禎央さんによって、最近発行された図鑑にも掲載されていない見慣れないスカシバガが採集されました。その後、ガ類の分類を研究テーマとしている屋宜さん、指導教員でガ類の分類が専門の広渡俊哉教授、スカシバガ科の分類が専門の名城大学の有田豊名誉教授との共同研究により、このガが新種であることが判明しました。

このガは、*Teinotarsina* 属に含まれますが、日本ではこれまでこの属に含まれる種は発見されていませんでした。また、近縁種は台湾や中国に分布していますが、外見はまったく異なっています。その原因として、沖縄県におけるハチ類の多くは他の地域に比べ赤色化が著しい地理的収斂現象が見られ、今回発見された新種もその影響を受けたのではないかと推定されます。



図：今回発見されたスカシバガ科に属する新種のガ（「*Teinotarsina aurantiaca*」）

■効 果

スカシバガ科は害虫も含んでいるため、調査がよく進んでいるグループです。今回発見された新種のガは、開張（はねを広げた幅）が約 30mm と比較的大型です。今回の発見によって、沖縄島を含む琉球列島が中国大陸と関連があることや、そこに分布する昆虫類の種多様性が十分に調査されていないことを示す点で重要な意義があると考えます。また、沖縄島では、ハチ類の多くは他の地域に比べ赤色化（暗色化）する地理的収斂現象が見られ、今回発見された新種もその影響を受けたのではないかと推定されたことから、この地域に見られる固有の収斂現象を考える上でもよい契機になると思われます。

■今後の展開

今後は、さまざまな昆虫のグループで、沖縄を含む琉球列島や中国大陸でのさらなる調査により、日本列島に生息する昆虫類の多様性や起源が明らかになることが期待されます。

【お問い合わせ】

大学院農学研究院 教授 広渡 俊哉

電話：092-642-2837

FAX：092-642-2837

Mail：hirowat_t@agr.kyushu-u.ac.jp